

鯉淵学園同窓会

同窓会報

鯉淵学園同窓会報 第93号

令和元年11月1日

発行：鯉淵学園同窓会

〒319-0323

茨城県水戸市鯉淵町 5965

TEL:029-259-2811

FAX:029-259-6965

http://koibuchi.main.jp/

メールアドレス dousou@mail.koibuchi.ac.jp

次の70年に向けて正門整備



旧正門



新正門（新しい桜の木を植えました）

挨拶

鯉淵学園同窓会会長

九石 裕



新生鯉淵学園に期待

同窓会員の皆様には日頃から本会活動に対しご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

特に昨年1年間は学園改革の取り組みについて、各支部長をはじめ多くの会員の協力を得ることが出来ましたことに改めて感謝いたします。

学園存続に向けた取り組み

学園改革の検討は昨年4月以降農民教育協会評議員会・理事会が集中的に開催されました。同窓会を代表して選出された評議員並びに理事と存続に向けた運動を展開しました。各都道府県支部長には随時情報提供を行いました。昨年11月には都内で常任委員・監事合同会議メンバーの他に全国ブロック代表（北海道、沖縄など6名参加）を加えた拡大常任委員・監事合同会議を開催し、存続に向けて協議を行いました。

また、今年1月には同窓会として農民教育協会評議員会・理事会並びに協会理事長宛に「公益財団法人農

民教育協会・鯉淵学園の再生・存続要望書」を提出しました。これらが協会評議員会・理事会に強く影響を与えたと聞いております。

新しい学園に期待

学園は15年前からタイ王国農業省との教育交流を継続してきましたが、今年から産学連携により、アグリビジネス科に国際農業コースを開設し、留学生の受入を開始しました。人材教育の国際化に向け、その成果が目ざれております。

母校訪問で学園の広報活動

特に若い同窓会員にお願いしたいのが母校高校訪問です。卒業生が訪問することが一番活きた情報の提供になります。普段着で『鯉淵自慢』のパンフを持って訪ねてください。近況報告とホームページをご覧下さるようお願いして結構です。

若い同窓会員にお願い

私たちの巣立った学園は創設74年になります。時代の変遷と共に学園の教育内容も変化しています。特に昨年は新生学園に向けた要請運動で多忙な1年でした。同窓会の日々の活動は全国会員からの年会費等によって賄われております。

鯉淵学園の次の70年に向けて同窓会も気持ち新たに活動展開に努めて参りますので、特に若い会員各位には会費納入に特段のご協力を頂きますようお願い申し上げます。

(公財) 農民教育協会・鯉淵学園の新体制始動



(公財) 農民教育協会
常務理事・事務局長
海老澤義昭

同窓会の皆様には寄付金を始め種々の活動での協会・学園に対する多大なご支援ご協力に感謝致します。学生募集に向けての広報宣伝、70年記念には多くの参加者、また総額2千万円に及ぶ寄付金を頂き大いに感謝しています。また、協会・学園の財政的危機に憂慮されての役員会議での激励や、学園存続に向けての強力な要請活動を受け、大いに勇気づけられました。同窓会活動に敬意を表します。

将来のあり方検討経緯
平成21年以降、補助金行政の全面見直しや少子化が進む中、危機突破に向け4年制から2年制への改編や有機コース、協同組合コースの新設等、社会の新たなニーズを掘り起こすべく、学びたくなる学校を目指し対応してきました。

しかし、国は農業者育成の教育機関への補助金をドラスチックに打ち切り、JA全国連からの支援打ち切り、また学生数大幅減少のトリプル要因により、協会・学園の財政が一挙に悪化しました。

協会・学園の将来選択

協会・学園の今後のあり方としての選択肢は、経営改善での乗り切り、提携企業・法人からの支援での乗り切り、最悪の選択は協会解散・学園閉校の究極の選択まで検討してきました。平成30年度は通常4回程度の理事会を14回開催し、徹底議論の結果、国際農業コース開設・開講(令和元年)に伴い提携を進めてきたイセ食品(株)の支援、協力を得て協会・学園の再生を図ることとしました。

新体制始動

令和元年4月新年度スタート、また6月には理事、監事の任期満了による改選、評議員の補充により新体制が発足しました。

農民教育協会の新理事長に伊勢彦信イセ食品(株)代表取締役会長、学園長に島崎弘幸イセ食品(株)たまご研究所所長、副学園長に長谷川量平教授がそれぞれ就任しました。

なお、提携強化の観点からイセ食品(株)、東京農大、(有)瑞穂農場(株)環境管理センターから評議員、理事に就任頂き、提携強化を図りました。

協会・学園の新たな70年に向けて、役員一丸となって難局を乗り越え、再生の道に進進する所存であります。同窓会の皆様の倍旧のご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします。

公益財団法人 農民教育協会役員名簿

新体制の紹介

公益財団法人農民教育協会鯉淵学園農業栄養専門学校運営に新年度からイセ食品株式会社が参画し、執行体制が新しくなりました。

4月1日からの新執行体制に伴い、須田哲也協会理事長、近藤博彦学園長、入江三弥子副学園長は3月31日付をもって退任されました。

主な役員は次のとおりです。

顧問	二田孝治 (一社) 全国農業会議所会長	理事	矢澤一良 早稲田大学ナノ・ライフ創新研究機構 規範科学総合研究所 ヘルスフード科学部門長
[理事・監事]		理事	袖木茂夫 全国農業会議所 専務理事
理事長	伊勢彦信 イセ食品(株)代表取締役会長	監事	加納和孝 元聖徳大学 大学院教授
常務理事	海老澤義昭 法人事務局長	監事	深谷伊知郎 茨城県農協中央会専務理事
常務理事	元茨城県信用農協連専務理事	[評議員]	水戸農協常任理事 (公社) 国際農業者交流協会常務理事
常務理事	島崎弘幸 鯉淵学園農業栄養専門学校学園長		東京農業大学客員教授
常務理事	イセ食品(株)たまご研究所所長		(公社) 日本国民高等学校協会理事長
常務理事	奥野卓司 大学院大学準備室長		学校法人東京農業大学理事
理事	山階鳥類研究所長・理事		税理士
理事	関西学院大学名誉教授		(有) 瑞穂農場代表取締役社長
理事	黒澤賢治 特定非営利活動法人アグリネット理事長		(株) 環境管理センター取締役
理事	鯉淵学園同窓会副会長		元茨城県農林水産部長
理事	高橋征子 元(公社) 茨城県栄養士会会長		イセ食品(株)代表取締役社長
理事	元東京農業大学副学長・名誉教授		茨城大学非常勤講師
理事	長谷川量平 鯉淵学園農業栄養専門学校副学園長		元下野農協常務理事
理事	福澤淳一 イセファーム(株)取締役社長		鯉淵学園同窓生
	イセ食品(株)取締役専務		

新任挨拶



鯉淵学園
農業栄養専門学校
学園長
島崎 弘幸

鯉淵学園の次の70年に向けて

この4月に、近藤博彦先生の後任として、学園長を仰せつかりました。前職は大学教授で、定年後、イセ食品(株)たまたご研究所で所長を勤めているのですが、イセ食品(株)伊勢彦信会長が、本学の理事長に就任されたことに伴い、私が学園長を仰せつかりました。同窓会の皆様には、ご挨拶が遅れましたが、どうぞ、宜しくお願い申し上げます。

18歳人口が減少し、また、大学が増えて、えり好みをしなければ全員が大学生になれる時代です。

専門学校にとつて、入学希望者の減少は避けられない事実です。しかし、専門学校には大学にない良さがあります。それは農業、あるいは栄養士の技能が、短時間で一通り学べることです。卒業後はその技術を生かし、実際の仕事に従事しながら、さらに技能を伸ばすことができます。大学と専門学校、どちらが近道でしょうか? 学者・研究者を目指すなら大学ですが、技術者・技能者として、尊敬される社会人を目指すなら絶対に鯉淵学園です。私たちは、自

信と誇りをもって、学生の教育・指導に当たっています。

さて、私が鯉淵学園に来て、驚いたことの一つに、タイやアセアン各国とのつながりが、古くからの伝統として、根付いていることです。今年8月の初め、タイで開かれた職業教育に関する国際会議に学園長として招待されました(写真参照、右から2人目学園長)。これもタイと鯉淵学園の深いつながりによるものですが、更に、驚いたことは、何人もの鯉淵学園で学んだという人にタイで出会ったことです。10年、20年前に、研修生として鯉淵学園に学んだ人が、今、アセアン各国でリーダーとして活躍されています。鯉淵学園として、なんと素晴らしい国際貢献でしょう。

鯉淵学園は、70年を超える伝統があります。でも、その伝統を守るだけではないけません。次の70年の伝統を創るための日々の努力が必要です。鯉淵学園の先生方は、この新しい時代の伝統を創るという合言葉の下に燃えています。どうぞ、卒業生の皆様、古くて、新しい鯉淵学園を再訪してください。毎年、学園祭の日を、卒業



生にとつてのホームカミングデーとしては如何でしょうか。皆様にお目にかかれる日を楽しみにお待ちしております。

退任挨拶



公益財団法人
農民教育協会
前理事長
須田 哲也

このたび、公益財団法人農民教育協会・鯉淵学園の代表理事理事長を役員改選により、3月31日付けで退任をいたしました。

これまで、3期6年間、次世代を担う農業人及び栄養士養成など教育活動に微力ながらも尽力できましたことも、皆さま方のご支援によるものと厚くお礼を申し上げます。

これから、協会・学園は、イセ食品(株)の経営参画や東京農業大学をはじめ、産学連携機関などの協力を得て、新たな体制により運営することになります。変わらぬご協力をお願いいたします。

協会・学園の名称、教育研修事業や教職員など、すべて従前と変わりありませんが、新設の国際農業コースに、この4月からアセアン等の留学生教育が加わりました。これからは、少しばかりの山間農業や林業などを健康づくりを兼ねて楽しみたいと思っています。

退任挨拶



鯉淵学園
農業栄養専門学校
前学園長
近藤 博彦

今春3月末をもって農民教育協会の常務理事・学園長を退任いたしました。平成23年10月1日に就任しましたので、7年半学園長を勤めさせていただきました。

農林水産省とJAGグループ全国連が学園経営から撤退し、財政支援がなくなる中で、農業法人との提携等様々な工夫を重ねました。財政収支が厳しくなると同窓会の皆様に寄付をお願いし、ご支援をいただきました。

学園では大学等の農業教育と生産現場を担う農業者教育は同じではなく、技能の修得が不可欠な農業者教育は、手間がかかることを学びました。

また、教育はお金がかかり、少子化時代の学校経営は財政の確立が最優先課題だと認識させられました。

イセ食品(株)をはじめ提携先の協力で学園は存続し、生産現場が必要とする青年農業者や、栄養士の育成・確保などの面での役割は引き続き残されています。同窓会の皆様方の一層の結束とご活躍をご期待申し上げます。

来年度入学生募集の協力要請



鯉淵学園 農業養育専門学校 副学園長 長谷川 量平

4月より、副学園長を拝命いたしました長谷川量平です。専門は食料経済で、主に畜産物の流通に関して研究をしています。担当科目は情報処理基礎、フードシステムなどです。

鯉淵学園の現状

創立以来正門とグラウンドで鯉淵学園を見守っていた桜も70年を超え、朽果てそうになっていましたので、思い切って全部切り倒し、若い桜の木に刷新いたしました。また、本年度より、アグリビジネス

次の70年に向けて

先日植えた桜は鯉淵学園の「次の70年」を見守ろうとしています。「次の70年」の礎を作るのが私に課せられた大きな課題であると思っています。そのために

- ① AI(人工知能)を取り入れた農業人材教育プログラムの構築
- ② 農場でのGLP(優良試験所規範)への挑戦
- ③ 次を担う教職員体制の構築
- ④ 職業実践専門課程への挑戦
- ⑤ 学生目線での校内整備
- ⑥ 教員の資質向上機会の提供

に現在取り組んでいます。鯉淵学園は、歴史も古く、同窓会の皆様をはじめ大きなネットワークを持っていると思います。上述の取り組みも、鯉淵学園内だけではなく、皆様や多くの企業のお力を借りて、ネットワークだけでなく、フットワーク良く成し遂げていきたいと思っています。

お願い

鯉淵学園は、新しく生まれ変わらなれないといけないと思っています。そのためには、来年度入学生を何

としても100名以上確保しなければいけません。親類、近所に、農と食に興味のある方、改めて学びなおしたい方がいらっしゃいましたら是非、学園までご一報ください。特別進学相談として、対応させていただきます。よろしくお願いいたします。

新入学生の抱負



アグリビジネス科 園芸・組合コース1年 綱川 真衣 栃木県立宇都宮白楊高等学校卒

私の家は農家で、お米と野菜を栽培しています。農作業をする親の姿を見て、私もやりたいと思う、農業高校に進学しました。更に、より専門的に学ぶため、父の進めで鯉淵学園の入学を決めました。

実習は大変な作業も多いですが、先生や先輩方と楽しみながら作業をしています。学生寮でも、海外からの留学生と交流もできるので、楽しく寮生活を送ることができています。私は、将来、実家の農業を継ぎたいと考えています。今はまだ知識が足りませんが、2年間勉強して、多くの人に喜んでもらえる作物を栽培できるように努力していきます。



アグリビジネス科 園芸・組合コース1年 沖田 篤輝 茨城県水城高等学校卒

私は高校卒業後、職に就いていましたが、農業について幅広く学べることや、留学生と交流ができることなど、在学中にたくさん経験ができることに魅力を感じ、鯉淵学園を選びました。

将来はグローバルに働きたいと考えており、留学生を通して文化や習慣を理解、尊重し、お互いに日々切磋琢磨しています。2年間という短い時間ですが、これからの農業の可能性について模索しながら学園生活を楽しみたいと思っています。



学園の前身教育施設 史跡木碑



食品栄養科1年
麓 真綾香
茨城県立水戸農業
高等学校生活科卒

私が鯉淵学園に入学した理由は、学校見学会に参加した時に敷地面積に驚き、自然が多いところにあこがれを持ったからです。

今、寮の周りにはたくさんのカブトムシやアリ、ダンゴムシがいます。特にダンゴムシは玄関にもいます。虫が好きな方には是非入寮をお勧めします。

勉強に多少不安がありますが、しっかりと学び、活躍できる栄養士になりたいです。



食品栄養科1年
高階 美沙
茨城県立多賀高等学校
普通科卒

私が鯉淵学園に入学した理由は、たくさんの実習があるからです。1年生の前期から実際に大量調理の現場に入って実習を行うので、栄養士としての力が身につくと思います。これから2年間、栄養士になるために頑張りたいと思っています。



食品栄養科1年
酒井 あさ美
国立福島工業高等専門学校
コミュニケーション情報学科卒

私が鯉淵学園を選んだ理由は、食について、一から学べる点、実家（北茨城市）から通える範囲にあったことです。社会人として働いていましたが、生きていくうえで欠かせない食について、専門的に学びたいと思ったことからです。

講義や実習を受ける中で、自分が普段食べているものが何からできているのか、おいしく食べるための調理法などを学べる点がとても楽しいです。

また、将来の仕事の選択肢が多い事も魅力だと思っています。先生方や先輩方の話を参考に、自分に合う仕事に就きたいと考えています。



食品栄養科の実習



アグリビジネス科
副学科長
兼国際農業コース長
大熊 哲仁

国際・農業コースの概要

本年4月、国際農業コースの留学生1期生としてタイ25名、インドネシア4名、ベトナム2名、モンゴル1名、ネパール1名の計33名（男性18名、女性15名。19歳から31歳）が入学しました。学生寮での生活を必須とし、1部屋3名ずつ、朝夕の炊事や清掃、寮裏手の菜園など共同生活を楽しく送っています。

化学や生物など基礎科目以外の講義と実習は2クラスに分けて履修させています。

日本語を学ぶ講義も行っており、入学時よりもずいぶん日本語は上達しました。耕種の実習は学内農場で行っていますが、畜産（養鶏）の実習は、提携企業の農場・工場で行っています。

多人数の留学生受入れは、心配事も多いです。しかし、時に羽目を外すこともありませんが、本学の魅力に惹かれた諸外国の若者たちは、礼儀正しく、真面目に留学生生活を送っており、彼らの学ぶ意欲にどのように応えていけるか、私自身も様々な学びが必要と感ずることがあります。



アグリビジネス科
国際・農業コース1年
ソンゲウ シッパン
(アトム)
タイ王国ガムペンペット県出身

私は留学生です。タイ王国から来ました。

鯉淵学園に入学した理由は、来日して農業を学ぶことが希望で、水戸市にある日本語学校でも勉強しました。そしてイセ食品の実習プログラムにも参加しています。

私の夢は、卒業した後、日本で得た知識を自国へ持ち帰り、タイ農業の開発と発展に役立てたいと思っています。そのために今は一生懸命学んでいます。



国際農業コースの講義

研修科の取り組み



研修科
嘱託講師 石塚 仁

研修科では、新規就農を目指す社会人を対象に「チャレンジ！ファームスクール」、茨城県からの職業訓練委託事業「農業者育成科」の2つの研修をメインに実施しています。いずれも農業に関する専門の講義と農場実習を、1年間または7ヶ月間行います。農業に必要な各種資格も取得出来、前者は農業次世代人材投資資金の対象となっています。

また、国際協力機構（JICA）と国際農業者交流協会（JAEC）からの委託で、海外からの農業研修生を短期間受け入れる「国際研修」や、茨城県からの委託で、県内の農業者を対象とした「農業簿記講座」と「小型建機等の作業資格取得研修」を実施しています。

さらに、幼稚園児や小学生、中学生を対象とした農業体験実習の受け入れや、一般の方を対象に畑を貸し出す「鯉淵ひろびる農園」を開設しています。



研修科
矢本 千里
静岡県出身

海外転勤のある夫との結婚を機に、今後の働き方について模索していたところ、言語の問題や長く働ける事などから「農業」へ興味を持ちました。とは言ってもなんの見通しもなく、当初は弱気になってしまっておりましたが、留学生との交流や先生方のサポートを受け、少しずつ方向性が定まってきました。具体的な課題が見えて来たことにより、現在は学ぶ喜びを感じながら一日一日を大切に、食欲に学園生活を送っております。



生産出荷の様子



研修科
青柳 雄一郎
千葉県出身

私の周辺には農業に関わっている方は全くおらず、私も経験がないため、不安を抱いたまま鯉淵学園に入りました。しかし、短期間の研修であるが故の濃密なカリキュラムに、今はその様な不安は感じる暇がないほどに忙しくも充実した日々を送っています。触れたことのない知識や体験を通じて、かつてない程に自身の成長を強く感じています。



研修科の実習



中学生が食育を学ぶための実習です。幼稚園児や小学生も受入れています。

中学生農業体験実習



小型フォークリフトの運転業務資格を取得するための研修を実施しています。

小型建機等作業資格取得研修

新体制の鯉洲学園に寄せる恩師からのメッセージ



鯉洲学園名誉教授
西村 典夫 (4期卒)

人師・心友に遇い 行間を読む

略歴「学内」昭和3年福島県生。同21年鯉洲学園入学。同24年卒業。同時教務職員。平成6年定年退職。その間、植物病理学・応用昆虫学・農業学・微生物学等の講義と研究。図書館長、教務部長。
「学外」日本農業実践学園講師、理事。茨城県農業大学校講師。国際協力事業団農業研修館講師。茨城県病害虫研究会会長。
「現在」鯉洲学園名誉教授・日本植物病理学会永年会員。茨城県病害虫研究会特別会員。農学博士（東京大学）。
「提言」鯉洲学園教育に賛同する個人、法人を会員として公募する。教育・財政担当業務を強化充実する。教育環境の整備充実。学内外における教職員の研修。農場・直売所、加工所等の効率化。文化講演・特別講義。自治会活動、学園祭・運動会、各種研究会、同好会等の育成が肝要。理想は高く、実行は足下から。倦まず、弛まず、ご健闘を祈ります。



鯉洲学園名誉教授
砂田 義雄 (5期卒)

卒業生の絆の強さに感激

新しい元号が令和になり、鯉洲学園も新しい体制で新年度を迎えられました。
理事長に伊勢彦信氏を、学園長に島崎弘幸氏を迎え、学科もアグリビジネス科国際農業コースを新設するなど新風が吹き込まれました。私が現役の頃には考えも及ばないことが実現され、驚くばかりです。
一方では、地域や県支部などの同窓会、期毎の同期会などが盛んに行われており、卒業生の絆の強さを痛切に感じております。
私は満90歳になりました。平成29年の暮れに胃癌の手術を受けましたが、辛い経過良好で抗癌剤等の必要もなく、自宅で療養しています。食事に気をつけ、間食でカロリーを補給しています。又、30分程度の散歩をして体力の維持につとめています。以上簡単ですが私の近況です。
最後に、鯉洲学園の益々の向上発展と共に同窓会も末長く強い絆で結ばれていくことを祈念いたします。



財団法人農民教育協会
元理事長
高橋 隆三 (9期卒)

新たな学園に期待

鯉洲学園の初代学園長 小出満二先生は、鯉洲に学ぶ学徒の心得として「単に抗弁の人でなく、必ず自ら体験し技能を有して、よく実行するものでなければならぬ」を説かれ、ヒューマニティを基調とし、科学的で習慣化された実践的態度の養成を重視してきました。
その場として比較的多い農場実習を課し、キャンパスの美化にも力を入れ実施してきました。
最近、正門から本部事務棟まで車を走らせました。桜の古木は更新され空き地には芝生、生垣も設置された様相が一変しました。新学園長の命があったと言います。
有機公認圃場を含む広大な土地や諸施設の管理は不備も多いが改善の一步を踏み出されました。
地域社会から支援される教育機関を目指し、大きく前進されることを期待いたします。



入江 三弥子 (29期卒)

公益社団法人
茨城県栄養士会の会長に就任

私が鯉洲学園に入職時の上司は白田喜代志先生で、県栄養士会会長を務めておりました。そして生涯勉強することと栄養士活動の精神を背中から教えていただきました。
当時茨城県内の栄養士会入会者は400名位で、調理室の研究室が事務局で、会の仕事を手伝いました。
今回栄養士会長を引き受けましたのもその延長のように思えます。
学園は1970年に栄養士教育を開始しました。生活栄養科と名前を変えて（普及員・栄養士）の資格取得を目指しました。もう50年になるうとしています。今は若い学生と一緒に勉強できることに感謝しております。これからも適切な最新情報の収集・発信を図りながら健康づくり運動に携わっていききたいと思っております。
最後に副学園長在任中は皆様に変なお世話になりました。厚くお礼申し上げます。

就任紹介

全国で活躍する鯉淵学園卒業生の活動紹介



丸山健太 (66期卒)
長野県伊那市

地域の支援を受けて新規就農

伊那市を選んだきっかけ

私は学園卒業後、長野県の伊那市で新規就農しました。

そのきっかけは、学園在学中に研修で伊那市の花卉農家に1ヶ月間お世話になりました。この伊那市では、アルストロメリアやトルコギキョウなど、花の栽培が盛んな地域です。

栽培技術はもちろん、さまざまな面で頼りになる農家や若い生産者も多くいることを知り、『ここでやってみよう』と思うようになり、就農先として伊那市を選びました。

地域や農協の支援

就農するにあたって、まず暮らししていくための住居の確保や農地の確保、そして栽培品目の決定など、色々やらなくてはならない事がありました。

そんな中、住居と農地に関しては農協をはじめ地域の農事組合法人などに協力して頂き、圃場の近くに家を見つけて頂きました。

栽培品目は、トルコギキョウを栽

培することにしました。トルコギキョウは、初期投資をあまりかけない上、水稲の育苗後、空いたハウスで出来るからです。

ちなみに長野県では、トルコギキョウの生産量が日本一で、上伊那地域も主要産地として年間250万本以上出荷しており、オリジナル品種も沢山あると言うのも栽培を決めた理由の一つです。

現在の経営内容・今後の目標

今は、13aほどの規模で約4万本のトルコギキョウをお盆から10月頃までの期間に栽培しています。

しかし、未だ規模的にも本数的にも少ないので、今後の目標としては、規模や本数を増やすだけでなく、6月のブライダルシーズンから11月下旬まで栽培期間を延ばして出荷できるように努力していきたいと思っています。



トルコギキョウ栽培の様子



堀田 弘 (15期卒)
茨城県笠間市

甘くて大きなクリづくり
クリ矮化栽培法で特許取得

1、クリ樹は高木性果樹

慣行のクリ栽培では、クリ樹の幼木期若木期までは余り手を加えずに栽培しても、結果母枝や結果枝が旺盛に伸長するため、果実収量は年々増加し、苗木を栽植後8〜9年頃に最高収量に達します。その後、枝が密生して隣樹と枝先が交叉を始める、樹冠が広がった割に収量が伸びないのが一般です。この原因として、日照の良い樹冠表面には球果が着生するが、内部は日照不足で、結果枝の成長が悪くなるためと考えられています。

クリは高木性果樹であるため、人為的に樹形を小さくすることは困難と考えられ、整枝・せん定等樹体管理の改良は検討されてこなかったのは事実です。

2、クリ矮化栽培法の発想

クリ樹は主幹から順に主枝、亜主枝、結果母枝、結果枝が発生し、結果枝に球果が着生します。クリ樹は上部優勢性が強く、樹冠の先端枝の結果母枝が伸長するたびに車枝が発生し、樹高は年々高くなります。そ

ここで、主枝や亜主枝は使わずに樹高を低くする矮化栽培法として、主幹の高を2m程度にして、冬季の整枝・せん定時に、主幹側部から2年枝(結果母枝)を残して、地面に足をかけて整枝・せん定作業が出来ると考えました。

3、クリ矮化樹の整枝方法特許内容

矮化栽培は、苗木を栽植して1年樹の冬季整枝・せん定から行います。1年でも無せん定にすると樹形は完成しません。つまり苗木を栽植してから5年樹の成木樹までは、毎年樹齢ごとに整枝・せん定を行い樹形作りを行います。クリ矮化栽培法の樹形は主幹形で、主幹側部から直接結果母枝を伸長させて、球果を着生し果実を収穫する方法です。矮化樹は5年目(5年樹)の主幹の樹高は190cmから200cmとなります。この主幹側部から結果母枝本数は3年樹で3本、4年樹4〜5本、5年樹以降は6〜7本として果実を収穫します。この樹形が矮化栽培の特許です。

4、クリ矮化栽培樹は葉面積が多く無効容積が無い

矮化栽培樹の生育期は主幹頂部と主幹側部から1年枝(結果枝)と2年枝(結果母枝)が21〜25本伸長しております。主幹側部から枝の長さは150〜200cmです。1本の枝に60〜65枚が着葉します。この1枚の葉は葉面積が広く葉色は濃緑色です。矮化樹はこれらの葉で樹冠全体が覆われるため、樹冠内に無効容積は無いのが特徴です。葉が密生して

いても総ての葉に日光が届くため、炭酸同化作用が旺盛と考えています。同化養分が多ければ根や枝、果実に供給され、旺盛な樹勢と毬果の肥大を促進すると考えております。

5、収量目標

クリ矮化栽培法は、苗木を栽植して3年目（樹齢3年樹）から果実の収穫に入ります。主幹側部から伸長する2年枝（結果母枝）から結果枝が伸び、毬果が着生します。品種による変動を考慮しても3年樹で10a当たり40〜50kg、4年樹で100〜130kg、5年樹で200〜250kgの収量が可能です。平成28年茨城県県の10a当たりの収量は102kgです（茨城県クリ生産状況）。

6、大きくて甘い果実

平成26年に矮化樹5年樹の品種「ぼろたん」の収穫調査を行いました。10a当たりの収量は247kgで、そのうち3L果以上（1果重32〜25g・JA茨城中央栗選果場）が84.6%、3L以下が10.8%、その他が4.6%でした。すなわち、果実は大粒で、果色も優れていました。また、果実糖度の測定を茨城県工業技術センターに依頼したところ、収穫直後の糖度は11.25度（慣行栽培糖度^{3.5度}）です。零下1度の冷蔵庫に1ヶ月間貯蔵すると15.96度（メロンの糖度と同じ）と高まることが判明しました。



クリ矮化栽培の樹形



三浦 喜美男 (25期卒)
茨城県つくば市

開発途上国の
技術者にコメ作り指導

私は鯉洲学園卒業後、国際協力機構（以下、JICA）の職員としてアジア、アフリカ、ラテンアメリカなど開発途上国の技術者の人材育成に携わってきました。

海外では、インドネシア（ボゴール農科大学）、エジプト（米作機械化センター）、ボリビア（JICA事務所）、パラグアイ（日本人移住

者支援）、東ティモール（農業政策）などで活動しました。

国内では約20年、JICA筑波国際センター（以下、TBIC）において、開発途上国の稲研究者、普及技術者に日本のコメ作りを指導しています。

現在、「人生の生き甲斐」私の趣味としてつくば市のTBICで茨城のコメ作りを教えています。

1. 稲作技術の指導の狙い

開発途上国の研修員が求める日本の稲作技術の研修は、実践研修です。理論は母国でも学べるという彼らの考えからです。稲作研修コース開設当初から圃場での実証（実験）・実習を中心に行われてきました。

2. 私のコメ作りの指導法

TBICの稲作技術研修は、10名前後の研修員を、3月から10月までの7ヶ月間受け入れています。研修は講義30%、圃場実験・実習・視察70%でプログラムが組まれています。

私は、稲栽培技術の講義を行っていますが、講義では、茨城県の普及技術として利用された「絵で見るコメ作り12カ月」のマンガを英語に翻訳し、研修員の指導に役立てています。それに、茨城県の稲作農家が持っている「稲作こよみ」も併せて活用しています。また、1昨年からは、TBICで技術指導したことを研修員が帰国後、役立ててもらうため、稲の栽培技術をパワーポイントで作成したり、パソコンを活用して短編映画作りを指導しています。

3. 指導した開発途上国の
帰国研修員

1961年に開始された開発途上国からの稲作技術の研修員数は、2019年現在でおおよそ80カ国・地域。1500名です。その内私が関わったのは70カ国、750名の稲研究者らです。

帰国した研修員から「私は初めて稲作を日本で学びました（アフリカ人、ラテンアメリカ人）。自信をもって稲作農技術を農民に指導できるようにになりました（全研修員）」とメールで伝えて来ます。

私のこの外国人研修員の指導は何時まで続くか分かりませんが、体力と語学力がある限り継続したいと思っています。



講義の様子



前田 実 (30期卒)
沖縄県国頭村
沖縄県農業協同組合
経営管理委員会会長

シークワソーの加工で 地場産業に貢献

昭和51年に鯉淵学園を卒業し、農業会社に勤務後、農業に従事しました。

昭和60年に国頭村農業協同組合に入組し、営農指導員として農家の所得向上と地域の農業振興を図るため、国・県・関係機関と連携して奔走してきました。

平成10年にやんばる農業協同組合(合併農協)の北地区営農振興センター長として、シークワソーの生産安定化と産地・産業化を掲げ、行政と連携し、再生に取り組みできました。

シークワソーは沖縄で古くから知られる柑橘で、主にやんばる地域に自生した沖縄在来柑橘です(一部奄美、台湾に分布)。用途は家庭用が一般的で、また芭蕉布(特産織物)の染み抜きや洗濯用として用いられ、経済栽培には至っておりませんでした。

昭和40年頃からシークワソージュースとして一部製造されていましたが、本格的にスタートしたのは昭和50年の沖縄で開催された「沖縄国際海洋博覧会」でした。



きれいな果実をこれから出荷

シークワソーの果実

しかし、平成4年の果汁輸入自由化後、外国産果汁が急激に増え、国内果汁は大幅に減少しました。シークワソーも販売が伸び悩み生産者生産量も減少し、衰退の一途をたどりました。そのような中、大学や研究機関でシークワソーの果実、果皮に含まれるノビレチン成分が発がん性抑制効果があると発表しました。平成12年にTV放映を仕掛けると爆発的に脚光を浴び、ブームの到来となりました。これまで県内での生産量5000〜10000トが平成20年には3.55倍の35000トの生産量になり、県内のあらゆる企業がシークワソー商品の開発に取り組み、その波及効果は好調が続く観光産業にも大きく寄与しています。課題も多く残されており、

大きな産物として再生されたシークワソーを関係機関が一体となって課題解決に取り組み、地場産業として大きく育てていきたいと思っております。



篠崎 毅 (35期卒)
茨城県筑西市
左側 夫人の八重子さん
(35期卒)

学園は若者の出会いの場

鯉淵学園を卒業して40年近い歳月が過ぎてしまいました。自分自身の中では、あの頃とそんなに変わらないうのですが、体力の方は完全に老人になってきました。すでに亡くなった同期生も何人かいます。

卒業後、農業を中心に仕事や生活を営んできましたが、それ以外のことは何をやってきたのかよく分かりません。人生なんてそんなものかも知れませんか。

私が農業を始めた頃と今とは、この業界もずいぶん変わりました。今は企業的なビジネスモデルを作り上げた人でないと、生き残っていくのは難しい時代かも知れません。

そこには牧歌的な農業らしさはあまりないかも知れませんが、この流れはどんどん加速してゆくとはいえません。もちろんいろんな形態の農業があった方がいいのですが、個人の能

力が問われるようになってくるかも知れません。

若い頃は、農業の良さとは何か、豊かに生きるとはどういうことかなどと考えたことがありましたが、最近では考えてもあまり意味がないかなと思ってきました。そんなことを考える余裕が無くなってきたのです。人の価値観は移り変わりますし、今この時の自分のやりたいことをやるのが一番いいのかなと思います。いま振り返ると、もし鯉淵学園に行かなかつたら、今とは全然違った生き方をしていたと思います。農業もしていなかつたかもしれないし、今の妻とも結婚しなかつたでしょう。そう思うと人の出会いは不思議なものですね。鯉淵学園にはそんな出会いがたくさんありました。まさに人生を変える出会いでした。学園もあの頃と今とは随分変わったみたいですが、いつまでも若者の出会いの場であり続けてもらいたいと思います。



6次産業で建設したケーキ屋



大森 祥子 (43期卒)
茨城県水戸市

農協改革に女性の力発揮

私は鯉淵学園に、生活栄養科で3年間、その後普及専攻科で1年、通算で4年間お世話になりました。

当時は生活改良普及員の資格を取得しても茨城県では採用がなかったことから、生活指導事業を行っていたJA中央会（当時は農協中央会）に就職を決めました。

平成2年に中央会へ入会しましたが、その頃の職員数は100人弱で、職場は圧倒的に男性社会で、女性の正職員は10人ほどの数でした。私も10数年ぶりの女性職員の採用ということででしたが、職場では「女性職員を補助的な業務から総合的な活用をしよう」とする転換期でした。

その様な中で、生活事業を担当し、JAの生活指導員の方々と、女性部の皆様とお仕事をさせていただきました。また、農業者年金の業務も担当し、JAの職員はもとより農業会議や農業委員会の方々とも業務を共にする機会があり、県内市町村に出かけて対応することもありました。

その後、総務部門に異動になり、職員の給与や社会保険に関する業務を担当しました。この時期に、中央

会の職員能力開発計画において「40歳以下の職員は農業協同組合監査士の資格取得」が打ち出されました。私も農業協同組合監査士への挑戦は、今までの学習や職場経験から全くと言っていいほどかけ離れた分野でしたが、職員として今後も働き続ける為には監査士の資格が必要だと一念発起しました。複数年かかりました。職場の皆さまのご協力により、何とか資格試験に合格し、農協監査士の選任を受けることができました。

30代での挑戦でしたが、県内では最初の女性監査士となりました。監査士受験の挑戦中に監査部門へ異動し、年間100日前後の監査業務に対応しました。

監査部勤務後は、総務部門において経理を担当し、その後再度監査部門へ配属されましたが、現在は総務企画部の副部長として、中央会全体の予算管理や人事労働管理の業務に当たっております。

30年近く中央会で仕事が出来たのは、職場環境に恵まれたことが大きな理由であり、その様な中で今後は若い職員の活用をどのようにより出していくかが仕事であると考えっております。



学園のイチヨウ並木
(平成の内原十景)



樋口 賢治 (54期卒)
福岡県八女市

天敵利用のイチゴ 「あまおう」生産

私の経営は苺、米麦、大豆、菊芋を生産しています。苺は、日本でトップブランドである「あまおう」です。苺栽培は機械化が難しく、腰を曲げての作業が多く重労働です。そこで全ての作業を立ったまま出来るように改良しています。高設栽培にすることで、クリーンな作業環境が実現できています。それは、高品質な苺栽培にも繋がっています。

苺の病害虫対策の基本は「IPM」。害虫を観察して、化学農薬に頼らない天敵利用を核とした総合的防除を実施し、生産者にも優しい農業が長く続けられる農業を展開しています。苺栽培において主な害虫は、ハダニ・アブラムシ・アザミウマです。その中でも一番問題になるのがハダニです。これには、2種類の天敵「チリカブリダニ・ミヤコカブリダニ」をスケジュール法による放飼により完全に抑えることが出来ています。アザミウマに関して物理的な防除として特殊な防虫ネットを張り、天敵の「リモニカ」を放飼することで抑えることが出来ました。

去年の収穫期において、害虫目的

の殺虫剤散布をすることがありませんでした。天敵防除を始めて15年目であり順調に進んでいます。新しい取り組みとして、6次加工を進めています。あまおうのドライフルーツや菊芋パウダー加工です。組合を立ち上げて市の補助金を利用して、設備を整えました。パッケージデザインなどにもこだわり、専門の業者をお願いして、さらなる販路開拓をしています。

また、食育活動も地元小学校で行っています。米の田植えから収穫だけでなく、予約注文による販売。そしてポン菓子に加工してバザー等での販売を児童が行います。昨年は約1ヶ販売できました。生産から販売まで経験することで、より深く学習できています。

今後は、さらに生産性を向上させ、6次加工品の売上を上げていくことを目標にしています。



大玉のイチゴ「あまおう」

青年海外協力隊活動に参加して



野澤 ゆう (56 期卒)
東京都練馬区

協力隊の活動

私は平成20年に青年海外協力隊員としてニカラグア共和国に野菜栽培指導を目的に派遣されました。

鯉淵学園在学中から協力隊には興味があり、海外研修に参加し、より一層海外の農業に興味を持ちました。派遣先は女子修道院が所有する農場でトマト・ピーマン・トウモロコシ・家畜用穀物など自家消費する作物を中心に栽培を行っていました。私は自家栽培用の作物の栽培指導と共に、ハマイカやドラゴンフルーツなど、換金作物を導入することを提案し栽培を開始しました。私が現地にいる間に収入を得るまでに木が育たないこともあり、地域でリーダーとして栽培を行っている農家と修道女を繋げ、私がいなくなっても彼女たちが農業指導を受けられる環境作りも行いました。それと共に多くの農家と出会い、彼らの農業を見ました。

帰国後の活動

帰国後はもつと国際協力について

学びたいと考え、通信制の大学院で国際協力を学び、その在学中にJICAインターン制度を利用し、再びニカラグア共和国で国際協力活動に参加しました。これからの展望
現在は育苗会社に勤務していますが、育種を学ぶために長期出張で研修に出ています。まだまだ勉強中の身ですが、これからも農業に関する多くのことを身につけて世界の農家と関わりを持つていけるような仕事をしていけるようにと毎日働いています。



ニカラグア共和国での協力活動の様子 (右から3番目野澤さん)

同窓会支部活動の取り組み

岩手県支部総会

平成30年11月4〜5日に、雫石町鶯宿温泉「ホテル偕楽苑」において開催されました。岩手支部は毎年県内持ち回りで総会を開催しています。総会は前年度事業報告・決算、次年度事業計画と収支予算案の審議検討が行われ、いずれも全員一致で承認されました。役員改選は今回はありませんので、高橋 勝氏(26期)が引き続き支部長の任にあたります。総会後は本部同窓会会長から学園と同窓会の近況報告があり、情報交換を通じて親交が深められました。



熊本支部総会 (不知火会)

第70回不知火会総会

平成31年2月2日に、山鹿市の旅館「巳喜」で行い、16名の参加がありました。

総会では前年度事業報告・決算、次年度事業計画と収支予算案が承認されました。懇親会には会長の友人でもあります中嶋山鹿市長にも出席を頂きました。

また懇親会終了後は、山鹿市観光イベント「百華百彩」に参加し、勇壮な山鹿太鼓の演奏や幻想的で優雅な山鹿灯籠踊りを見学し、楽しいひとときを過ごしました。

不知火会も70回を迎えましたが、若い参加者がいないことが課題です。欠席者には総会資料と議事録を送付し、参加者増加に努めています。

(文責 事務局)



鯉淵ひょうごの集い

令和元年6月2日に、神戸市の「シードホテル舞子ビラ神戸」の本料理「有栖川」で開催しました。参加者は少なかつたが、久しぶりの再会に大いに盛り上がりました。当日は本部同窓会長に参加いただき、学園改革の経過と今後の運営について報告いただきました。鯉淵学園の再生・存続に向けた取り組みは、昨年12月の同窓会報第92号で報告されたところです。また、3月に開催された評議員会並びに理事会で新しい体制が決定したので、同窓会として今後も母校の存続を見守っていききたいと思えます。

宮崎県支部総会

令和元年6月8日に、宮崎県支部の総会を行いました。出席者は13名で年々少なくなつて来ております。支部としての活動を終わりにしようかという意見もありました。

しかし閉じてしまおうと学園との繋がりがなくなってしまうので、支部としての活動は行わないが、県内の各地区単位で交流を行うという事になりました。

連絡員(支部長)をおき、今後とも学園と繋がっていくことになりました。新しく選出された支部長は、29期の長友文彦氏です。(文責 前支部長 壹岐安子(24期))

卒期別活動の取り組み

18期生会開催

令和元年6月16日、恩師高橋隆三先生を迎え、内原町湯泉荘にて茨城県在住人が発起人になり、18期生会を開催しました。

各地を廻り茨城での再会には高齢者となり、老いが目立つも時間を忘れ、夜遅くまで和やかな宴になりました。

翌17日は加藤完治記念館、義勇軍資料館にて説明と講話を受け、学園にては厳しい状況形態が変わりつつ、維持に向けた思いを聞くことができました。学園食堂にて昼食後、一路友部駅にて解散いたしました。

出席者16名、再びいずれかの地での再会を誓いました。



21期生と宮古支部との

合同親睦会

21期生は平成30年10月22日〜24日までの3日間、南国宮古島で同期会を開催しました。北海道から沖縄までの同期生19人が参加。宮古支部の先輩、後輩の方々に大変お世話になりました。心から厚く御礼申し上げます。

宮古空港からホテルまでの送迎、2日目の宮古支部との合同懇親会は市内の民謡居酒屋で宮古島の民謡と宮古の踊りクイチャーを踊るなど盛會に開催できました。宮古支部のみなさん本当に有難うございました。事務局の島さんご苦労様でした。

(文責 宮古島出身 茨城県在住 仲松 晃市)



自然災害のお見舞い

今年6月に発生した山形・新潟地震、9月に発生した九州北部豪雨、台風15号の暴風雨による千葉・茨城等の被災、続く10月の台風19号による岩手、宮城、福島、茨城、栃木、群馬、埼玉、東京、神奈川、新潟、山梨、長野の広範囲にわたる河川の氾濫・堤防決壊等による大規模浸水の甚大被害に見舞われました。

被災された鯉淵学園卒業生の皆様、心からお見舞い申し上げます。厳しい生活環境が続く中ですが、一日も早く復旧されますようお願い申し上げます。



明石海峡大橋をバックにハイチーズ

26期生会開催

3年ごとに開催している26期会は、北陸大会より引き継ぎ、平成30年11月12日「別府温泉」にて、「鯉学から50年・温泉で癒す26期・IN九州(別府)」をテーマに北海道、東北から同伴者を含め52名の参加者をもって盛大に開催されました。

7名の幹事の気配りにより会の進行もスムーズに、そして同期生130名中8名の物故者に黙祷をささげました。

また、これまで6回3年ごとに開催をしてきましたが、健康の内に何度も再会しようという提案で、2年周期の開催となり、次回令和2年には東北・山形県を中心に開催することになりました。

懇親会では近況報告を受け笑いの渦に、最後は全員が肩を組み寮歌を斉唱し、深夜まで話はつきませんでした。最高の癒しとなりました。

2日目は、湯布院観光を楽しみ、昼食会を持って解散いたしました。13名が2泊をとり、重ねて楽しい一夜を送りました。

更に開催通知の折、メッセージ等の報告書を76名から頂き、編集して参加者と欠席者31名の方に写真集を記念としてお届けしました。

後日、欠席者を含め多くの方よりお礼と楽しかったと、お喜びの便りを頂きました。開催地として、お世話できて良かったと喜んでくれる次第です。(文責 大分県 甲斐文義)

33期生同窓会大会

平成30年11月18日、19日に茨城県大洗町の「鷗松亭」を会場に、卒業後3回目となる33期生同窓会大会が行われ、北は秋田県、南は広島県から総勢54名が集まりました。

前回の長野県松本市開催以来5年ぶりでしたが、今回が初めての参加者もあり、久しぶりの再会に会場のあちこちで話が弾んでいました。

酪農場の実習でお世話になった山本英治先生、クラス担任や特研でお世話になった西村典夫先生にご臨席頂き、懐かしいお声を拝聴しました。

同窓会事務局からは、園芸農場責任者である秋葉勝矢先生にお出で頂き、学園の近況をご紹介頂きました。今回は2年後に宮城県で開催するこ



ととなりました。(文責 茨城県 石塚 仁)

同窓会本部宛に33期生同窓会参加者全員から同窓会活動資金にと10万円を寄付して頂きました。皆様のご厚意に対し心から感謝を申し上げます。同窓会運営に大切に役立ててまいります。

住所不明者の 情報提供のお願い

- | | | | |
|------|-------|-----|-------|
| 2期 | 石山 真 | 55期 | 澤野展隆 |
| 2期 | 森安一夫 | 56期 | 橋本正道 |
| 2期 | 伊予 節 | 57期 | 中尾明人 |
| 5期 | 上野 進 | 58期 | 宮垣孝典 |
| 7期 | 丸山 茂 | 61期 | 庄野 勝 |
| 9期 | 白土忠男 | 61期 | 中島隆志 |
| 9期 | 山崎 修 | 62期 | 篠原由衣 |
| 9期 | 木幡七郎 | 64期 | 花山 愛 |
| 9期 | 永野宗四郎 | 64期 | 野原里奈 |
| 9期 | 富永 治 | 65期 | 大川晴香 |
| 13期 | 柴田賢一 | 66期 | 柿島龍紀 |
| 15期 | 前田幸徳 | 66期 | 宮内悠輔 |
| 22期 | 松村正雄 | 66期 | 瀧 郁美 |
| 22期 | 江副美知子 | 67期 | 小西佑亮 |
| 25期 | 大沼 満 | 67期 | 藤枝早紀 |
| 25期 | 椎名 猛 | 68期 | 黒田 夢 |
| 25期 | 小松崎一男 | 68期 | 佐藤つかさ |
| 27期 | 大内貴恵子 | 69期 | 池田理紗 |
| 29期 | 松原珠代 | 70期 | 山口由佳 |
| 32期 | 鈴木 巖 | 70期 | 山田康平 |
| 32期 | 菊地昇悦 | 70期 | 佐藤康丞 |
| 33期 | 坂井幹弘 | 71期 | 関野紘子 |
| 33期 | 金城昇子 | 71期 | 山本 泉 |
| 36期 | 滝沢誠一 | 71期 | 後藤春敏 |
| 36期 | 萩原明好 | 71期 | 大内勝郎 |
| 36期 | 高瀬浩子 | 71期 | 山崎正俊 |
| 39期 | 福島幸一 | 71期 | 武原幸蔵 |
| 40期 | 濱谷 智 | 71期 | 富樫義弘 |
| 42期 | 武井昌夫 | 71期 | 竹中敏美 |
| 43期 | 豊里竜也 | 71期 | 山田英雄 |
| 44期 | 太田功三 | 71期 | 山田英雄 |
| 44期 | 砂川国敏 | 71期 | 純英 |
| 46期 | 門脇賢治 | 71期 | 長谷川 恵 |
| 46期 | 橋本仁一 | 71期 | 沼信次 |
| 47期 | 安部千晶 | 71期 | 麻生 勲 |
| 選49期 | 福寄順子 | 71期 | 江良 積 |
| 50期 | 當 単人 | 71期 | 山田藤政 |
| 51期 | 佐藤雄一 | 71期 | 竹岡新次 |
| 52期 | 大西美紀子 | 71期 | 早川迪生 |
| 53期 | 武山勝宏 | 71期 | 長嶺征一 |
| 54期 | 高橋ひとみ | 71期 | 齋藤 徹 |

写真で見える鯉淵学園構内施設の

移り変わり(昔と今)



現男子寮 (曙・北辰寮)



旧事務棟



旧講堂



現女子寮 (若葉寮)



現事務棟



現体育館 (修繕工事中)

鯉淵学園の再生
存続要望書について

母校の窮状打開を図るべく、同窓会は全国7700名を超える同窓生を代表し、学園の再生・存続に向けて平成31年1月10日付で農民教育協会評議員会・理事会並びに協会理事長宛に再生・存続要望書を提出し、実現できるよう強く要請しました。

鯉淵学園の再生・存続要望書

鯉淵学園同窓会会長 九石 裕

平素より、同窓会活動につきまして
は特段なるご理解とご支援を賜り
厚く御礼申し上げます。さて数年来、少子高齢化の急速な
進行と産業としての農業とりわけ就
農構造の大きな変化に伴い就学者は
急速に減少傾向を示し、万全を尽く
すも学生の定員割れに歯止めがかか
らず「農民教育協会・学園存続」が
困難な状況との報告を頂いており、
本同窓会も物心ともに最大限の支援
を長期的かつ継続的に実践してきた
経緯から、同窓会常任委員会を急遽
開催し、7700名余の全国同窓生
の総意による「協会評議会・理事会」
に対し、幾つかの論拠から左記の通
り協会経営再生と学園教育理念の継
承を前提とする「要望書」を提出さ
せていただきますので、意に沿った
運営実践、更には経営再生に尽力さ
れたく要望いたします。

(経緯)

1 既に昨年から実践されている東
京農業大学との「包括連携協定」を
基軸とした相互連携を強化し、経営・
教育再生への提携強化を促進された
り。

2 産学連携をベースとした「国際
農業コース」開設の最大のパートナ
ーであるイセ食品グループとの連携
を再構築し、大きな変化が予測され
る「外国人在留制度」の先進事例と
しての教育システム構築を契機に、
パートナーシップに基づく支援強化
を促進されたい。

3 崇高な教育理念を掲げ、70余年
に及び農業・農村・食品産業の人材
育成を実践してきた「農民教育協会」
の役割と機能を再確認し、国・県・
農業団体・食品産業界に対し様々な
支援要請と併せ協力関係の構築を実
践されたい。

(要請結果)

上記同窓会の要請に準じた「鯉淵
学園存続・再生」が決まりました。
本年度より、新しい理事長、学園
長のもとで学園は運営されています。
学園の発展がなければ、同窓会の
発展もありません。全国の支部から
学生を鯉淵に送り、学園の更なる発
展を支えて下さい。

同封物の見方



- 1 あなたの整理番号です。
- 2 QRコードより登録内容の変更ができます。また住所未確認者等の確認もできます。

変更のある方はいずれかをご利用下さい。

- ①フリーダイヤル
- ②フリーFAX
- ③QRコード (携帯電話)

- 3 年会費の振込用紙です。コンビニエンスストア・郵便局よりお振込み願います。
- 4 同窓会寄付金お振込みの方は金額を記入の上郵便局よりお振込み願います。永年会費は下記の表をご参考に該当する金額を記入の上郵便局よりお振込み願います。

年会費及び永年会費、寄付金の振り込み用紙です。ご協力お願いします。



永年会費納入案内

(永年会費は年会費を一括納入するものです)
平成31年3月の新卒業生は72期生

卒業後の経過年数	卒 期	金 額
新卒業生～ 5年	72期～68期	40,000円
6年～10年	67期～63期	37,500円
11年～15年	62期～58期	35,000円
16年～20年	57期～53期	32,500円
21年～25年	52期～48期	30,000円
26年～30年	47期～43期	27,500円
31年～35年	42期～38期	25,000円
36年～72年	37期～ 1期	22,500円

会費・寄付金納入のお願い

同窓会の運営は、全国同窓会員の会費によって成り立っております。現在、同窓会会計は会費未納会員が非常に多いため、財政が枯渇し、日々の運営が大変厳しい状態です。これまで同窓会は、母校鯉淵学園の存続に向けて物心両面にわたり支援してきましたが、活動費が少なくなり、これまで通りの支援が出来なくなっております。特に会員の情報紙である同窓会報の発行が不可能になり、学園支援も出来なくなります。同窓会の円滑な運営のために、これが状況を是非ご理解頂きまして、会費及び寄付金の納入に絶大なるご協力を伏してお願ひ申し上げます。

第34回鯉淵学園同窓会大会の案内

2年毎に開催している同窓会大会は、今回第34回目を迎えます。

特に今年は学園創立以来、始めて産学連携により公益財団法人農民教育協会・鯉淵学園の運営に国内鶏卵業界最大手の「イセ食品株式会社」の経営参画を得て、新たな執行体制が始動いたしました。

これまで本同窓会は、学園の存続に向けて協会・学園に要望書を提出し、物心ともに最大限の支援を長期的かつ継続的に実践してまいりました。

協会・学園も「鯉淵学園の次の70年に向けて」を合い言葉に、新たな伝統を創るため学園長を先頭に教職員一丸となつて邁進しております。

本同窓会も新たな気持ちで活動する意義ある大会に盛り上げるため、イセ食品株式会社代表取締役会長である伊勢彦信農民教育協会理事長を招聘し、学園の運営方針について直にお聞きする機会といたしました。

今回は交通便利に配慮して特例で東京を会場に開催いたします。都道府県各支部長並びに多くの会員のご参加をお願いいたします。

日時 令和元年11月30日(土曜日)

午後2時開会

会場

東京都中央区八重洲1-8-16

新横町ビル内 12階

TKP東京駅

セントラルカンファレンスセンター

(JR東京駅八重洲中央口より徒歩1分)

同窓会事務局(東京) Tel 0120-10-9899 (内線155) 平日10:00~17:00
-お問い合わせ- Fax 0120-10-9184 (終日受付)

編集・印刷 / 鯉淵同窓会事務局 〒121-0831 足立区舎人3-11-26 EPS TEL 03-5839-3456(代) FAX 03-5839-3460